

私は、このタイ研修に参加する上で、タイの文化を学ぶことと、英語を自信を持って話せるようになることを目標にして2週間のタイ研修に参加した。帰国した今、私はこの2つの目標は達成されたと感じている。チェンマイ大学で授業を受け、スタッフの方々やバディやホストファミリーと接しながらチェンマイで生活することで、タイの文化、英語それぞれの面でたくさん学ぶことがあった。

タイ研修1日目は移動し、ホテルの近くのナイトバザールに行った。タイに到着すると、ナイトバザールでタイでの初めての食事をした。タイならではの食べ物の辛さと、パクチーと、日本では見たことのないフルーツに挑戦した。2日目は、チェンマイ大学とチェンマイ大学周辺のシティーツアーをした。チェンマイ大学のツアーで1番驚いたことは、大学の広さだ。チェンマイ大学の広さは400ヘクタール、東京ドーム80個分に相当する。大学間は無料バスやバイクなどで移動することが多いそうだ。シティーツアーでは、様々なお寺を見学し、ブッダへの崇拜の仕方もチェンマイ大学の大学生であるバディから学んだ。日本とは違い、チェンマイには仏教の信仰が強く見られ、街のいたるところにお坊さんがいたり、金色や白色の綺麗なお寺があった。3日目は満月の夜で、ブッダの祭の日だったので、お花とろうそくが包まれたものを持ち、お寺の周りを胸の前で手を合わせながら3周し、その後ろうそくに火を付け願い事をしブッダに祈りを捧げた。4日目は、農業体験と少数民族の学校訪問をした。農業体験では、タイの北部(ランナー)の人々の農業の仕方を教わった。ランナーの農業は、タイ国王がベースを作られていて、そのお陰で農家の方々の生活は改善され、現在も成り立っているという話を伺った。農家の仕事は穀物や野菜などの食物を育てること、陶器や彫り物、紙作りなどの物作り、そして軍人としての活動の3つがある。私達も実際に物作りを体験させてもらい、粘土で陶器をつくったり、木彫りをしたりした。少数民族の学校訪問では、ランナーの伝統的な踊りやファッションショーや料理を披露してもらい、私達からは日本のレクリエーションゲームや折り紙を一緒にし、最後には日本のお菓子や折り紙のプレゼントをした。5日目は、チェンマイの有名な観光地に行き、夜からホームステイがスタートした。私はホームステイをするのは初めてで、とても楽しみだった反面、少し不安もあったが、ホストファミリーの Aim、旦那さんの Menz、息子の Sun は私を本当の家族のように受け入れてくれ、一緒にショッピングやサタデーマーケットに連れて行ってもらったり、洞窟のお寺を観光したり、タイの料理を食べたりし、とても充実した3日間を過ごせた。7日目からは、企業訪問や、ムエタイ、ゾウ乗り、タイ料理、タイダンスなどを体験し、タイの素晴らしい文化を身をもって体験した。

2週間を通しての英語の授業は、主に Speaking、Listening の力を伸ばすことができた。R と L の発音の違いなど、日本人が不得意な発音に気づきネイティブに近い発音をするために早口言葉を交えて練習したり、クイズをしながらよく聞くことでアクティブリスニングのトレーニングをするなど、普段とは違う英語力の身につけ方を学んだ。また、プレゼンテーションの授業では、聴く相手がどうやったら退屈せず興味を持って聴いてくれるのかを学ぶことができた。

タイ研修に参加するにあたり、毎日私たちの行動がスムーズにできるようサポートして下さったチェンマイ大学のスタッフの方々、私を暖かく迎え入れてくれたホストファミリー、そして毎日のように様々な観光名所やバザール、美味しいレストランやカフェに連れて行ってくれ、タイが大好きだと思わせてくれたバディには心から感謝したいと思う。タイ研修に参加して、多文化に触れる面白さを学ぶとともに、違う言語の人とコミュニケーションを取るためには、もちろん英語も大切だが、それ以上お互いを尊重し、理解し合おうとすることが最も大切だということを学んだ。今後はこの研修の中で出会った沢山の「日本にとっても行きたいから、日本に行った時は案内してね」と言ってくれた人達に私がタイでタイの良さを感じたように、彼らに日本の良さを伝えられるようにまずはもっと日本のことをよく知り、私自身の英語力も伸ばしたいと考える。そして、またいつかタイを訪れたい。